

おかねのヒント

みんなで学ぼう

知るぽると

www.shiruporuto.jp

金融広報中央委員会

皆さんの貯蓄は、この1年間でどうなりましたか？

金融広報中央委員会が先月(10月23日/金)公表した「家計の金融行動に関する世論調査」では、家計の預貯金をはじめ、株式や債券等の金融資産保有額や金融商品を購入する際に重視することなどを調査しています。主な結果をご紹介します。

今年の2人以上の世帯の金融資産の平均保有額は、前年と比べて28万円減少し、1124万円でした。減った理由としては、「収入減で貯蓄を取り崩した」との回答が引き続き一番多かったですが、前年との対比では、「株式、債券の評価額が下がった」との回答の増加も目立っています。また、運用していた資金が元本割れした経験がある世帯は前年に比べ増加しており、全体の4分の1に達しています。これも一因となっているのでしょうか、今後、金融商品を選択する際には、「元本が保証されていること」や、「少額でも預け入れや引き出しが自由にできること」など、すぐに現金化できる点を重視する傾向がやや高まっています。

このほか、同調査では金融行動の背後にある意識などについても調べています。景気や金融市況の悪化がみられましたが、調査結果からは、お金のやり繰りを工夫しながら、日々の生活をより豊かにしようとする家計の姿が浮かんできます。調査結果は知るぽるとホームページに掲載されていますので、ご自身の生活の点検にぜひとも役立ててください。

※「家計の金融行動に関する世論調査」(平成21年)の調査時期は平成21年6月～7月。